

## 巻 頭 言

### 総会フォーラムへの参加を お待ちしております

愛知県小児科医会 副会長  
大城 誠

この3年間に愛知県小児科医会が準備してきた第34回日本小児科医会総会フォーラムが、いよいよ開催されます。会報114号の巻頭言では台風と新型コロナウイルス感染症COVID-19のため中止となった第15回日本小児科医会生涯研修セミナーの回顧録を掲載してもらいましたが、今回の巻頭言においても総会フォーラムの準備段階における反省点や問題点を記載しておき、将来に役立てたいと思いました。

最初の1年は会場選びに苦慮しました。総会フォーラム規模の開催に最も適した名古屋国際会議場ですが、当初は修繕のため使用できないことになっていました。そのためウィンクあいち、メルパルク、名古屋コンベンションホールなどの候補会場について、その開催の可能性について議論が費やされました。結局、修繕の予定が延期されて名古屋国際会議場が使用できることが判明して、2021年7月になってようやく総会フォーラムの開催日と会場を決定することができました。

準備を開始した2020年の時点では、2023年の総会フォーラム開催時にはCOVID-19による影響はなくなっているだろうとの楽観的な推測がありました。そのためCOVID-19に関する企画を計画していませんでした。しかし、COVID-19の流行はその後も続いて、Web開催を余儀なくされた2021年の福岡での総会フォーラム、ハイブリッド開催となった2022年の高松での総会フォーラムではCOVID-19の講演や企画が盛り込まれていました。その時点で我々の総会フォーラムの開催時にもCOVID-19は小児医療に強く影響していることが予測できましたので、急遽COVID-19に関する特別講演を企画して、中部ブロック連絡協議会で報告された各県小児科におけるCOVID-19に対する取り組みを一般演題に応募してもらうように要請しました。COVID-19とその医療体制の変化について誰も予測はできなかったわけですから、流行当初における我々の見込み違いもやむを得なかったと今でも考えています。

このCOVID-19による総会フォーラム運営における最大の影響は、配信による視聴の要望が多くなったことです。これまでの会場における講演に加えてライブ配信やオンデマンド配信を加えるハイブリッド開催は、通信費・機材費・人件費が余分にかかります。3000人規模の学会において配信による参加者の増加はその費用を上回るかもしれませんが、総会フォーラムは1000人規模であるため見積もりでは赤字が予想されました。企業による協賛が難しい時代でもあって収入を増やすため、急遽、愛知県四大学の小児科や各地区小児科医会まで寄付を募ることにしました。愛知県小児科医会の皆様にはこの寄付と総会フォーラムへの参加と二重三重の依頼をすることになり、金銭的負担をお掛けすることに恐縮しております。3年前からハイブリッド開催が確定していれば、運営業者に見積もりを依頼してより安い運営業者を選定する方法があったかもしれません。ただ、配信の黎明期である3年前からその費用に関して確定できるものではなかったと考えます。現在の総会フォーラムの参加費と日本小児科医会からの寄付は従来の会場での講演を前提としており、ハイブリッド開催や物価高を反映するものではありません。この開催における収支の問題に関しては、日本小児科医会に報告するつもりでいます。

総会フォーラム準備委員会の中でも主に企画を担当された諸先生方のおかげで、早くにプログラムが準備されてホームページから公開することができました。ただ、オンデマンド配信の場合に演者の承諾を得る必要、専門医の単位申請が煩雑など、従来の会場での開催にはない準備における負担増がありました。今後、ハイブリッド開催が通常となる場合には、演者への講演依頼時に詳細な要綱を提示して承認を得ておく必要があります。

この巻頭言が何か愚痴っぽくなってしまい、申し訳ありません。しかし、総会フォーラム自体はテーマ「小児科医のあたらしい役割を考える」として、魅力ある企画にあふれております。本会報にはこの巻頭言に続いて、総会フォーラムの案内が掲載されております。愛知県小児科医会の皆様におかれましては総会フォーラムに是非ともご参加いただき、盛り上げていただきますようお願い申し上げます。